

第2回滑川市総合計画審議会及び 第2回滑川市ひと・まち・産業創生総合戦略策定委員会 議 事 概 要

日時：令和2年3月3日（火） 19：00～20：35
場所：滑川市役所本館3階大会議室

【委員】

役 職	氏 名	備 考
滑川市医師会 会長	伊 井 祥	
アルプス農業協同組合 代表理事組合長	伊 藤 孝 邦	
滑川商工会議所 会頭	今 家 英 明	欠席
連合富山新川地域協議会滑川ブロック長	浦 島 成 友	
滑川市小・中学校PTA連合会 会長	大 橋 央	
滑川市社会福祉協議会 会長	加 田 洋 一	
富山県新川土木センター 所長	酒 徳 鋼 一	代理出席 茂崎次長
滑川市自治会連合会 会長	澤 田 隆 之	副会長(副委員長)
市民公募委員	下 村 豪 徳	
滑川市民生委員児童委員協議会 会長	砂 子 良 治	
富山県新川農林振興センター 所長	津 田 敏	欠席
富山県中部厚生センター 所長	長 瀬 博 文	
市民公募委員	鍋 谷 智 子	
富山県私立幼稚園・認定こども園協会 監事	蛭 川 徳 子	
滑川漁業協同組合代表理事組合長	萩 原 金 吉	欠席
滑川市連合婦人会 会長	原 洋 子	
滑川市体育協会 会長	八 橋 謙 二	欠席
富山大学名誉教授	山 西 潤 一	会長(委員長)
滑川青年会議所 理事長	吉 森 真 人	新任
北日本新聞新川支社 支社長	魚 津 悟 司	総合戦略策定委員
北陸銀行滑川支店 支店長	山 川 利 道	総合戦略策定委員

【幹事】

滑川市副市長	石 川 忠 志	
滑川市教育長	伊 東 眞	
滑川市総務部長	石 坂 稔	
滑川市産業民生部長	藤 田 博 明	
滑川市建設部長	藤 名 晴 人	
滑川市教育委員会事務局長	上 田 博 之	

【議題次第】

1 開 会

2 会長あいさつ

3 協議事項

(1) 総合計画策定に係る市民アンケート調査の結果について

(2) 第5次滑川市総合計画基本構想の骨子について

(3) 滑川市ひと・まち・産業（しごと）創生総合戦略の延長等について

4 閉 会

主な発言内容

□会長あいさつ

□新任委員紹介、資料確認等

会 長：それでは次第に沿って進める。まず(1)総合計画策定に係る市民アンケート調査の結果について、事務局から説明されたい。

□事務局説明(1)（資料1）

□説明事項の質疑応答

委 員：説明頂いた中で、6ページの産業振興分野で、林業以下重要度が低いということだが、8ページの推移を見ると、数値と表現がマッチングしていないような感じを受ける。重要度は若干下がっているものもあるが、満足度は僅かではあるが、上がっている。

事務局：表現の仕方が悪かったのかもしれないが、重要度の全体平均が0.61となっている中で、今ほどの林業や水産業、工業、薬業に関しては重要度が平均に比べ低い状況にあるということを示したもの。

委 員：逆に見れば、産業分野の中で「農業」は数値が高いと言えるのかもしれないが、（重要度が低下しているという）数値を見たときに、どうなのかなと思った。

会 長：この相関図は10年前も同じようなものを出しているのか。

事務局：10年前も同様の相関図を作成している。

会 長：重要度は1が基準で太線になっているが、満足度は0が基準となっている。これはどういう理由か。

事務局：基準についても前回と同じものを採用しているが、重要度については、行政の施策で必要性のないものは基本的にないことから、概ね「やや重要」を選択するものとして1が基準になっているものと考えられる。

会 長：満足度については、満足の人と不満の間ということか。

事務局：そのとおり。

会 長：これは全体や年齢別の傾向ということだが、先ほどの農業者など、属性別に見ると回答は違ってくると思うので、そこは細かい分析が必要だと思うのと、こういうものを総合計画に活かしていくには、これから何を読み取って、どう

活かしていくのが大事。資料にあるように、「重要」であって「不満」という項目に対しては、行政として力を入れていくべきだし、例えば10年前に比べて満足度が上がった自然環境や子育て支援などは、行政の施策に対する評価として捉えて良いと思う。他に意見はないか。

委員：988人の回答者について、年代の偏りはあるのか。

事務局：アンケート対象者の抽出は、各年代でほぼ同数で抽出しているが、高齢者ほど回答率が高いため、偏りはある。結果的に70歳以上が25%あまりで、60代が19.7%、50代が15.5%、40代が15.1%、30代が13%、18～29歳が9.4%となっている。

委員：10年前もそのような結果だったのか。

事務局：10年前の回答は、若年層の回答割合は低いが、それ以外の世代では、今回に比べると比較的均衡はとれている状況であった。

委員：住みやすい点で「買い物が便利」が挙げられているが、住みにくい点でも上位にある。結局は地域差ということか。

事務局：ご指摘のとおり。例えば、「買い物が便利」という評価は、東地区、西地区、西加積地区が多かったが、「買い物が不便」という評価は、早月加積地区、山加積地区が多かった。

会長：他に意見がなければ、続いて(2)第5次滑川市総合計画基本構想の骨子について、まずは事務局から説明をお願いします。

□事務局説明(2)(資料2-1、資料2-2)

□説明事項の質疑応答

委員：4ページ目の4番に、「ビッグデータを活用した通学路の交通安全対策」とあるが、ビッグデータはどういったところでとられているのか。

事務局：まだデータはとっていない。

会長：国の方でも、いわゆる未来社会についてSociety5.0と表現しているが、非常に高速の通信網を整備し、その上でこういうことができるのではないかという1つのビジョンである。現実的には、まだそんなに実施されてはいない。特にこの通学という面では、まだ仕組みも作られていない。

会長：最後の「持続可能な社会の実現に向けた取り組み」はSDGsについての話だとあったが、前段でいろいろと埋め込められている内容は、全てSDGsに関わっている。特別、取りあげてどうこうというものではないような気がするが。

事務局：会長ご指摘のとおり、SDGsの取り組みに当たるものも多々あるが、今後進行管理をしていく上で指標を設定する中で、例えばSDGsのゴールの1つ、「住み続けられるまちづくり」に向けていろいろな取り組みをしようというのがあるが、その中の1つとして、「脆弱な立場にある人々、女性、子供、障害者及び高齢者のニーズに特に配慮し、全ての人々に、安全かつ安価で容易に利用できる、公共交通を提供する。」というのがある。その目標の1つとして、「公共交通機関に容易にアクセスできる人の割合」というのがある。このように、S

DG s の取り組みの中でも、具体的に達成目標が示されている中で、市としてもSDG s の目標を使って取り組んでいくということができれば、リンクさせてSDG s の要素にも取り組んでいきたい。そのようなことも考えているということで、今回挙げさせていただいた。

会 長：いろんなところでSDG s の取り組みがある中で、富山市もSDG s 未来都市に選定されたが、そうなることで何かメリットがあるのか。あまり、そのようには感じられないのだが。

事務局：具体的にはSDG s の例えば環境に関する取り組みに対する補助金などが考えられる。SDG s と言うと、国際的な幅広い分野もあるが、それを自治体に落とし込んで、持続可能な社会づくりをしていこうというのが、国の自治体に求めているSDG s の活動である。そういう考え方を踏まえて、自治体経営に取り組んで欲しいというのが国の思いである。

会 長：国の指定を受ければ財政が潤うとか、環境整備にプラスになるのであれば積極的にやれば良いが、中身そのものは提案されているまちづくりのテーマで、ほとんど実現できている気がする。

会 長：今、ひと・まち・産業を元気にという将来像の中で、基本の施策の方向性が示されている。あとは、これをいかに具体化していくかということで、国の方向性や第4次の計画を踏まえてこのように作られているが、それぞれの分野で「こういったところが抜けているのではないか。」といったものは無いか。第4次と第5次の時間的な変化としては、大きな問題として少子高齢化、また技術的にはいわゆる Society5.0 に係る情報技術の進化が考えられる。特に意見がなければ、次の協議事項に進み、後でもう一度見直すということにしたい。それでは、(3)滑川市ひと・まち・産業（しごと）創生総合戦略の延長等について、事務局から説明されたい。

□事務局説明(3)（資料3、資料3-2、資料4）

会 長：総合戦略を1年延長するということだが、どうして延長するのかというそもそも論について、もう一度説明願いたい。

事務局：前回の審議会でもご説明したが、現行の第4次総合計画は計画期間が令和2年度までとなっているのに対し、総合戦略は計画期間が令和元年度までということで、1年間期間のずれが生じている。また、総合計画と総合戦略で同じ施策を推進しているのに、異なる目標数値が設定されているなどダブルスタンダードになっており、非常に分かりづらい。そういった点を解消するため、総合戦略を1年間延長し、次年度第5次総合計画を策定する中で、一体的に策定したいと考えている。

会 長：達成指標については、厳しいというものもいくつかあると思うが、達成に向け、こういう努力をした方が良いのではないかという意見などはないか。トップアスリートの育成など、努力をしたからすぐにどうこうできるものではないようなものもあるが。

事務局：評価指標については、前回の会議でも説明させていただいたが、5年前に設

定しておりほぼ変更していない。本来であれば3年目などに社会状況等に合わせ見直すという方法もあったと思うが、実際そういうことを中間年に行わずにきたため、このような達成状況となっている。総合計画と一体化した際にもKPIは引き続き設定するので、毎年状況を見ながら必要なものについては下方・上方修正していきたいと考えている。

会 長：今ほどは、総合戦略の進捗状況であったが、先ほどの(2)総合計画の骨子について、視点を付け加えるなど意見はないか。なかなか今すぐ意見は出にくいとは思いますが、今後意見があった場合の段取りはどのようになるのか。

事務局：本日以降も、ご意見があれば随時いただきたいと思っている。また、少し期間を空けるが、夏ごろを目途に、具体的なものを素案としてお示ししたいと考えている。体系的で、なかなか判断しにくい面もあると思うが、次回素案としてお示しする際は、施策にしてももう少し細かい、具体的にどういった事業をやっていくかという点をお示ししたいと考えている。

会 長：今日は基本構想の方向性・検討の視点をうかがったわけだが、それについて皆さん意見があれば、遠慮なく事務局の方に言っていただきたいと思う。特に意見はないか。

委 員：資料4の5ページで、将来推計人口の目標人口が30,000人というのはかなり高いと思うが、今現在でも33,000人程度のものが40年後で30,000人というのはなかなか素晴らしい数字だと思うが。

事務局：ご指摘のとおり、国の推計に比べるとかなり高い目標数値となっている。ただ、5年前に人口ビジョンを策定した際の人口の推移と現状を比べると、今のところは、概ねビジョンどおりの推移をしている状況であり、今後も、子育て支援施策や、住環境の整備などに力を注ぎ、何とか目標人口の30,000人を達成したいと考えている。

副市長：前の総合戦略を策定した際は、社人研で滑川市は20年後で27,000人、40年後で21,000人という数字が出たわけだが、これは何もしなければという前提付きの数字なので、市では総合戦略を立てる際に、子育て支援などいろんなことをやると。また、滑川市は市制以降、一度も30,000人を割ったことがないので、そこを何とか死守するというので、30,000人の目標人口としたところであり、それに向けていろんな施策をやっていこうというのが現在の状況である。

会 長：ありがとうございます。まだまだご意見などあるかもしれないが、本日はこの辺で議事については閉じたいと思う。

事務局：先ほども申したが、次回は夏ごろ開催したいと考えているので、今後どういったことでも構わないので、随時ご意見をいただきたいと考えている。来年度は各地区で開催する市長と語る会でも説明を行い、そこで出た意見を踏まえ基本構想の素案として提示させていただきたい。しばらく期間が空くことになるが、次年度もご協力いただきたいと考えている。

本日はこれにて閉会する。委員の皆様、ありがとうございました。